

月例会ダイジェスト 【75】

6月10日に開催されたさんぽ会のテーマは「はじめての産業保健」。産業保健職を志す学生や、キャリアアップを図る人たちにに向けたプログラムが用意された。

コーディネーターは、福田洋氏(順天堂大学)、金森悟氏(帝京大学大学院)、楠本真理氏(三井化学(株))、坂本宣明氏(ヘルスデザイン(株))、海野賀史氏(SCSK(株))、白田千佳子氏((株)エクサ)の6名(発表者は5名)。

「学部生への産業保健の講義のダイジェスト」というテーマで発表した福田氏が、最初に自身へのインプット要素として挙げたのは、「教育、臨床、さんぽ会」の3つ。「学生時代の塾講師の経験や医師になってからの患者教育、さんぽ会で共有できた知見、臨床現場で得る知識やマインドなどがインプットされ、それがアウトプットにつながっている」と説明した。

アウトプットの1つである学部生への講義では、“産業医のある1日”など、産業医のリアルな姿を伝えていることを紹介。最後に「社員にしてみれば、産業医や保健師は、何かあったときにすぐ相談できる一番身近な医療者」と、仕事の面白さやそのやりがいを参加者に伝えた。

金森氏のテーマは「産業看護職の就職・学習方法」。求人情報の入手方法について「コミュニティのハブとなる存在とつながり、その人を通して情報が多方面から入ってくるようになると、チャンスも増える」と、人とのつながりの大切さを訴えた。

学習については、学会・団体主催の学術集会や研修会、セミナーへの参加、産業保健看護専門家制度への登録、大学等のプログラム受講といった方法を紹介。「個人の努力も大事だが、就職にしても学習にしても、人や組織、団体とのつながりをもつことがポイント。情報収集する際にも団体に登録するなど、自ら動いてつながりを構築してほしい」と結んだ。

産業保健師としての歩みを紹介する形で始まったのが、楠本氏の「はじめての保健師業務」。「組織担当の保健師としてポピュレーションアプローチをしていく中、保健師という仕事の面白さに気づいた」と振り返った。業務を進める上では、相手との関係性や自身の立ち位置を意識すること、また、「人や部署と連携するためにもコミュニケーション力は大事」との認識を示したあと、「受け身でいるのはもったいない。今の業務に直接関係していないことでもやってみる。会社の中だけでなく、外にも仲間を作る」とアドバイス。「とにかく自分の仕事を楽しんでほしい」と、エールを送った。

坂本氏のテーマは「はじめての産業医業務」。最初に基本となる知識を得るために押さえておくべき書籍や専門用語などを提示した。次の実践編では、体調確認、仕事内容

のヒアリング、保健指導など、労働者とのやり取りを通じて、職場への介入を検討することが多々あることを説明し、「産業医として一番求められる業務は面談」と、面談の重要性を説明した。最後に言及したのは、“産業保健に関わるときのセンス”について。「センスは生まれつきのものではない。よい産業医の姿を見て、磨いていくもの」と見解を述べ、「なにより思いが大事。なぜ産業保健をやるのかを考えて、熱く走ってほしい」と締めくくった。

「人事から産業保健職へのメッセージ」というテーマで登場した海野氏は、休復職に関する業務やストレスチェック、健康教育など、人事と産業保健職の接点を具体的に例示。「産業保健に詳しくない人事担当者は少なくない。その分、専門的知見をもって裁量度高く業務に臨めるのが産業保健職だ」と、産業保健職のやりがいについて、人事側の視点にもとづいた見解を示した。

参加者へのアドバイスとして、「その企業で産業保健職に何ができるか、何をすべきかを検討するためには、企業の特徴・方針・状態を把握しておくことが非常に重要」と述べた海野氏。最後は「会社は治療の場ではない。ただし、仕事と治療の両立支援や働く環境の整備はとても大切。なにより病院へ行く手前で食い止める予防活動ができるのは、大変有意義なことだと思ってほしい」と、産業保健職への期待を語った。

質疑応答では、ヘルスプロモーションを研究テーマにしている学生から、「産業保健を進めていく上で、ステークホルダーである上層部の承認を得ることが重要かと思うが、実際にどのように理解を得ているのか」という質問があり、それに対し、楠本氏が「説明に行く際には、同業他社事例やエビデンスなど、どういう情報をもっていけばその人に刺さるのかをよく考える。誰に言うかということや、同行者の人選も大事」と、具体的な実践例を挙げてアドバイスした。

後半は、グループに分かれてトークセッションを行った。職歴の浅い参加者からの「求職活動では経験年数がネックになってしまい、なかなか応募への入り口までたどり着けない」という悩みに対し、「派遣で経験を積み、労働衛生機関で働くという方法もある」と、先輩たちが助言する場面もあった。

今回のさんぽ会は、学生、若手、ベテラン、人事など、さまざまなレイヤーの人たちが一堂に会し、産業保健についての思いや経験に裏打ちされた知識を交わす場となった。最後に福田氏が、「さんぽ会では3つの“E”をシェアしている。エビデンス(Evidence)、経験(Experience)、努力(Effort)。産業保健職の楽しさ、素晴らしさなど、この場で共有したものを、今後実践してほしい」とコメントし、閉会した。

さんぽ会の詳細は下記サイトをご覧ください。

- ホームページ <http://sanpokai.umin.jp>
- FB ページ <http://www.facebook.com/sanpokai>